

「探さなかった者たちに見いだされ」

2018年10月11日

ローマの信徒への手紙 10章 18節～21節 それでは、尋ねよう。彼らは聞いたことがなかったのだろうか。もちろん聞いたのです。「その声は全地に響き渡り、／その言葉は世界の果てにまで及ぶ」のです。それでは、尋ねよう。イスラエルは分からなかったのだろうか。このことについては、まずモーセが、／「わたしは、わたしの民でない者のことで／あなたがたにねたみを起こさせ、／愚かな民のことであなたがたを怒らせよう」と言っています。イザヤも大胆に、／「わたしは、／わたしを探さなかった者たちに見いだされ、／わたしを尋ねなかった者たちに自分を現した」と言っています。しかし、イスラエルについては、「わたしは、不従順で反抗する民に、一日中手を差し伸べた」と言っています。

パウロは、「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」と語った。どんなに素晴らしいことも、聞かなければ伝わらない。そこで、パウロは例によって、「それでは、尋ねよう」と、イスラエル人はキリストの言葉を聞いたことがなかったのだろうかと問うている。答えは「もちろん聞いたのです」である。しかも、「『その声は全地に響き渡り、／その言葉は世界の果てにまで及ぶ』のです」と、イスラエル人は全地に響き渡る言葉を聞いたと言う。この言葉は、詩編 19 編 5 節「その響きは全地に／その言葉は世界の果てに向かう」からの引用で、神の栄光は世界に満ち、神の言葉は昼も夜も語り伝えられるという壮大な神賛美の詩編である。パウロは、そのようにイスラエル人も聞いていると語っている。しかし、神の言葉は静かに、囁くように語られることもあるのではないか。主イエスは、マタイ福音書 10 章 27 節で、「わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい」と、暗闇で、耳打ちするように、語りかける時もあると語っておられる。パウロは彼らしく、全地に鳴り響くように、キリストの言葉は語られたと言う。

そこで、「それでは、尋ねよう」と、イスラエル人はキリストの言葉が聞こえなかったのだろうかと第二の問をする。それに対する答えを二人の証言から説明している。一人はモーセで、「わたしは、わたしの民でない者のことで／あなたがたにねたみを起こさせ、／愚かな民のことであなたがたを怒らせよう」と言っている。これは、申命記 32 章 21 節 b「わたしは民ならぬ者をもって／彼らのねたみを引き起こし／愚かな国をもって／彼らの怒りを燃えたたせる」からの引用である。パウロは、神の民でない異邦人がキリストの福音を受け入れたことで、イスラエル人に妬みを引き起こし、愚かな異邦人のことでイスラエル人を怒らせると説明している。神は異邦人という対立軸を用いたと言っている訳である。二人目は、イザヤの「わたしは、／わたしを探さなかった者たちに見いだされ、／わたしを尋ねなかった者たちに自分を現した」という言葉である。これは、「わたしに尋ねようとしないう者にも／わたしは、尋ね出される者となり／わたしを求めようとしないう者にも／見いだされる者となった。わたしの名を呼ばない民にも／わたしはここにいる、ここにいると言った（イザヤ書 65 : 1）」からの引用で、神を求めない人にも呼び掛けているという神の積極的な心を言い表した言葉である。パウロは、神を捜し、尋ねなかった異邦人にご自分を現したと注解している。そして、イスラエルについての「わたしは、不従順で反抗する民に、一日中手を差し伸べた」という言葉はパウロの本心である。パウロ自身がイスラエル人に対する篤い伝道心で燃えている。